

# 令和5年度 事業計画

福岡県老人福祉施設協議会

## 1 基本方針

新型コロナウイルスの流行から約3年が経過し、感染症法の位置づけの変更が示されたが、介護現場では、これまでと変わらない緊張感が求められている。また、不安定な世界情勢によるエネルギー価格・物価の高騰により高齢者施設は厳しい経営を余儀なくされている。

さらに、少子高齢化が進み、今後、介護ニーズの飛躍的な増加が見込まれる一方で、人材不足の課題はますます深刻化しているため、多様な人材の確保・育成、現場のニーズに合ったICTの積極的な導入による業務効率化や適正化、科学的根拠に基づく質の高い介護サービスの実践が重要となる。

あわせて、災害や感染症、想定外の事態が起こった際でも、介護サービスの提供が可能な状況を維持したうえで、安定した運営を行うための体制づくりが必須となる。

本会では、介護現場が直面する諸課題を踏まえ、行政機関に対する働きかけや連携を図るとともに、介護を取り巻く制度や国の動向等に即応し、より充実した有益な事業の展開を図るため、以下の重点事項に取り組む。

## 2 重点事項

### (1) 各種制度施策への対応

- ア 各部会における各種別の具体的課題への対応策等の研究・実践
- イ 特命チームにおける対応策等の研究・実践
- ウ 国・県等行政機関、各関係機関等との連携強化

### (2) 社会福祉法人による地域における公益的な取組の推進

すべての社会福祉法人の責務とされた「地域における公益的な取組」を進めるために、各施設における地域公益活動の積極的な取組の普及・啓発に努めるとともに、制度対応できない様々な課題に対応するために、老人福祉施設の専門性を活かし、生計困難者等に対する相談・支援事業を行う「ふくおかライフレスキュー事業」の推進に取り組む。

### (3) 感染症への対応

福岡県との「感染症が発生した高齢者福祉施設等への支援等に関する協定」に伴う、会員相互の支援体制や関係団体等のネットワークを活用し、会員施設のサポートに努める。

(4) 災害時支援体制の構築に向けた取組

福岡県災害福祉支援ネットワークの強化に向け、複数法人間連携を通じて災害派遣福祉チーム（DWA T）の登録・推進を図るとともに、災害支援を行う多機関と連携し、県内外の災害支援体制の構築に取り組む。

(5) ケアの専門性と人材育成・人材定着

利用者の尊厳を尊重しながら、質の高い介護サービスを提供していくために、職員等のケアの専門性・資質向上に向けた人材育成・人材定着のための研修を実施する。

また、研修の成果を明確にし、研修をきっかけとして継続して学び続けられる人材の育成・人材定着を視野に入れた企画の充実を図り、各施設の専門職員同士で意見交換ができる場を設け、職員自身のモチベーションアップにつなげる。

(6) 福祉・介護職等の人材確保への取組

福祉・介護職等の人材確保・育成・定着に向けて、福祉・介護職の魅力を高める取組を福岡県、福岡県社会福祉協議会と連携し、積極的に展開する。

(7) 次世代の人材育成・介護の魅力の発信

介護業界が若者に選ばれる業界にするために、介護業界のイメージアップ、人材確保のためのイベントに参画する。

(8) 情報伝達機能の強化

情報伝達機能の強化、制度施策を中心とした、国、県、政令市、各関係機関等の動向に関する情報の迅速な収集・整理、分析・提供に努める。

また、各部会活動の取組内容、本会主催の研修会の案内、会員施設・事業所に有益な情報等について、ホームページやSNS等を有効に活用し、迅速かつ的確な情報発信に努める。

(9) 北九州高齢者福祉事業協会及び福岡市老人福祉施設協議会との連携

県内の老人福祉施設が一体となって福岡県における高齢者福祉を推進するため、常に北九州高齢者福祉事業協会及び福岡市老人福祉施設協議会との連携を図る。

### 3 会議の開催

- (1) 総 会 5月・3月
- (2) 正副会長会 随 時（必要に応じて）
- (3) 業務執行委員会 随 時（必要に応じて）
- (4) 監事委員会 5月・3月
- (5) 各部会 随 時
- (6) 県・県議会等との連絡会議 随 時

## 4 部会の活性化

下記の部会を設け、各取組を行う。

### (1) 特別養護老人ホーム部会

長く続くコロナ禍及び近年の物価上昇は、施設の経営・運営に多大な影響を与えている。

また、1年後の2024年には、介護報酬と診療報酬、さらには障害福祉サービス等報酬の同時改定を迎えるが、昨今の情勢を考えると大幅なプラス改定も期待できそうにない。このように、厳しい状況下ではあるが、本部会が昨年と一昨年に行った調査研究からは、特別養護老人ホームも転換を迫られている時期だということが明らかになった。

今年度は、前年度までの活動成果を基に特別養護老人ホームの多様性について探究し、推進活動を行うとともに、介護保険法改正、介護報酬改定に向けた準備を行う。

- ア 特別養護老人ホームの多様性について考える
- イ 介護保険法改正に向けた情報収集及び情報発信
- ウ 介護報酬改定に向けた情報収集及び情報発信

### (2) 養護老人ホーム部会

養護老人ホームの役割として、地域包括ケアシステム、ひいては地域共生社会の実現及び発展に向けて、地域での生活が困難な低所得高齢者及び軽度要介護者、精神疾患患者、矯正施設退所者等幅広いニーズを有する高齢者を受け入れ、社会的孤立を防ぐための居場所づくりや生きがい対策づくりが求められている。つまりセーフティーネットとしての機能の充実が期待されており、そのためには各施設が持つソーシャルワーク機能を向上させていくことが前提となる。

一部の市町村において、養護老人ホームの対象となる高齢者や支援内容、役割機能を十分に理解されていない状況がみられ、次第に施設と市町村との関わりが希薄となり、措置につながっていない現状も見受けられる。また地域における公益的な取組が未実施の施設もあり、地域に養護老人ホームへの理解が浸透しているとは言い難い面もある。

今年度は上記課題と各施設の現状を踏まえ、県と協働した研修会の実施をとおり、養護老人ホームの理解促進を図る等、課題解決に向けた検討を行うとともに、地域における関わり方や地域課題の把握など、地域共生社会の実現及び発展に寄与できる活動を各施設が取り組めるよう、以下の取組を実践しながら、各施設へ広く周知・啓発を図る。

- ア 地域の各種団体・組織等への啓発及び地域における公益的な取組への対応
- イ 養護老人ホーム職員の専門性の強化（養護老人ホームセミナーの開催）
- ウ 現況調査の実施

- エ 福岡県と協働した研修会の検討及び実施
- オ 措置機関に対する継続的な処遇改善の要望

### (3) 軽費老人ホーム部会

令和5年5月に新型コロナウイルスが2類から5類に移行する予定であることが発表され、経済活動は活発化することが予測される。しかし、福祉業界については過去の新型コロナウイルスの状況を考えると、今後の活動状況は不透明である。

今年度は、この状況に柔軟に対応をしながら、軽費・ケアハウスの今後の在り方や職員の資質向上を図るために、以下の通り重点実行項目を掲げる。

また、九社連及び全軽協九州ブロック等と連携しながら、利用者へのサービスの質の向上及び各施設における諸課題に対応したセミナーを検討実施する。

- ア 相談員・リーダー実践塾の実施
- イ 実態調査と分析
- ウ IT・ICTの積極的な活用
- エ BCPの課題整理
- オ 人員確保と定着率の把握
- カ 県事業費補助金の改定活動の推進

### (4) 居宅介護部会

令和3年度介護報酬改定は コロナ禍で行われたこともありプラス改定だったが、財務省は利用者負担の引き上げなどを求めており、次回の改定は給付抑制に関する議論は避けられず、自立支援やサービスの質の向上に積極的に取り組んでいる事業者の報酬は手厚く、逆に消極的な事業者には加算の要件を厳しくするなど一層メリハリをつけた報酬体系になることが予想される。また、BCP策定等の猶予期間が終了して減算が適用されたり、LIFEによるアウトカム評価、成功報酬の導入が拡充し、介護事業者の淘汰、二極化が懸念される。

居宅介護部会が行った調査によると、居宅サービスの半数程度が赤字を余儀なくされており、人手不足やコロナ対応等により自立支援にかかる加算の算定状況は低調で、ICTや介護ロボットの活用は十分でなく、感染症や災害に対するBCP策定についても課題を抱えている。また、厚生労働省が提唱する訪問介護と通所介護を組み合わせた新サービスの動向についても注視する必要がある。

以上を踏まえ、主として次の活動を行う。

- ア 各種加算の算定状況や課題の把握（継続）（アンケートの実施
- イ LIFEに関するセミナー（中級編）の開催（次世代部会と合同）  
（必要に応じて感染症や災害に対するBCP策定に関するセミナーの開催）
- ウ 「訪問+通所」の新サービスに対する考察

## (5) 研修企画部会

新型コロナウイルス感染症によりオンラインでの研修が定着してきたが、一方で、研修内容によっては集合研修や対面でのグループワーク等の必要性をあらためて感じさせられる一年でもあった。

そこで今年度は、研修のテーマ・内容によっては集合研修の開催も視野に入れ、Web研修とあわせてより多くの人に参加しやすい研修体制を構築したい。

eラーニングの研修動画については、昨年12のテーマの研修動画が完成し、これまでの動画とあわせると17のテーマで56本の動画が視聴できるようになった。ただ、視聴回数は、研修動画の内容やアクセス方法等の周知不足で伸び悩んでおり、今年度はeラーニングの広報活動や活用方法の周知を図り、会員施設の職員個々のキャリアアップにつなげたい。

また、この2年間はキャリアアップ研修、職種別研修、テーマ別研修を基本に研修を開催してきたが、今年度はこれらの研修の内容や開催方法等についても見直しを行い、時代に即したより魅力的な研修の開催を目指したい。

以上を踏まえ、今年度も各部会との連携を図りながら会員施設の研修に関するニーズの把握に努め、多様な人材に対応できる研修を企画し実施したい。

- ア 会員施設のキャリアパスに資するために、階層別研修の内容・方法の見直しを図る
- イ 職種別研修は研修ニーズに的確に対応するため、各職種より委員会メンバーを増員し小委員会を設置し協議する
- ウ 研修を通じて参加職員同士が交流を深め、また、そのことが事業所間の連携の強化や各事業所の活動の活性化につながるような研修を企画する
- エ コロナ感染状況を考慮しながら、適切な時期に集合・対面での研修を推進していく
- オ 各部会との連携を図り、制度・施策の変更等に対する具体的対応や最新の動向に即した研修を企画する
- カ eラーニング研修動画は、「法定研修」、「スキルアップ」、「制度理解」を中心に制作し、老施協ライブラリーの充実を図りたい
- キ 定期的に会員施設の研修に対するニーズの把握を行い、研修テーマの選定及び開催方法に工夫を凝らすことによって受講意欲や受講機会の拡大に努める
- ク 令和5年度の九州老人福祉施設職員研究大会への参画並びに各研究部会開催に向けて協力を行う

## (6) 災害対策部会

令和2年度に福岡県災害福祉支援ネットワーク協議会の発足に伴い、DWA T(災害派遣福祉チーム員)の養成登録が開始されている。

令和4年9月30日現在で、252名登録、福岡県老人福祉施設協議会からは102名の登録となっている。

本会は、ネットワーク協議会構成団体のひとつとして、その中心的役割を担うDWA Tの養成登録を積極的に推進すると共に、その他施設関係団体並びに職能団体との連携調和に努め、県内外における様々な災害に対する有事即応体制の確立に寄与することを目的に活動を行う。

- ア 災害派遣福祉チーム員養成フォローアップ研修への協力
- イ 災害派遣福祉チーム員組成研修への協力
- ウ 社会福祉施設等における事業継続計画（BCP）の策定支援
- エ D W A T チーム員登録数増員のための活動

#### （7）広報・デジタル部会

本部会では、「福岡県老施協活動の紹介」と近年急速な成長をしている「テクノロジーの活用例の紹介及び支援」を主な活動内容としている。

部会が発足して、2か年の間に、「Email 振り分け機能の紹介」、「福岡県老施協各部会の活動報告の支援」、「先進機器の紹介（見守り CUBE）」を行ってきた。

第一に、今年度においても、「福岡県老施協活動の紹介」を引き続き行うこととする。

第二に、令和4年度から取り組んでいる、「先進機器の紹介（眠り SCAN）」を引き続き行う。この活動を通して、「機器の紹介」だけでなく、会員施設の取り組みを紹介し、当該事業所の、魅力を内外に知らしめることにつながるものとする。

本部会、発足当初では、W e b 会議のツールが一般的でなかったものの、コロナ禍によりこの点の理解が進んだものと評価される。令和5年度も、オンラインを活用したさまざまなツールの活用が期待される所である。

本部会では、これらの有用なツールの紹介を合わせて行っていくものである。

また、広報活動としてホームページの更新を、各部会と連携して行っていく。

#### （8）次世代部会

会員施設における次世代を担う役職員の育成と相互研鑽及び資質の向上を図る。また、各地区次世代委員会活動の活性化を進めていくとともに、各事業所の人材育成・人材定着を推進することを目的とし、介護の魅力を発信するセミナー・イベントを企画開催する。

さらに、次世代の高齢者福祉を担う人材育成を目的とした研修会を企画し、各事業所の職員間で役職、職種の垣根を超えた相互研鑽を図ることができる活動を推進する。

特に LIFE に関する実務レベルでの会員施設間での情報共有が図れるように意見交換を含んだ研修会を企画開催し、会員施設での LIFE のスムーズなデータ入力が進捗できるように研修会を企画開催する。

以上を踏まえ、主として次の活動を行う。

- ア 各地区における次世代委員会のネットワークの強化
- イ L I F E に関するセミナー（中級編）の開催（居宅介護部会と合同）  
（必要に応じて感染症や災害に対する B C P 策定に関するセミナーの開催）
- ウ 次世代の新サービスに対する考察

## 5 関連事業

### (1) 九州ブロック関係

- ア 九社連老人福祉施設協議会 施設職員研究大会（福岡大会）  
令和5年10月19・20日 福岡県 福岡市
- イ 九社連老人福祉施設協議会 施設長研修会  
令和6年 2月15・16日 熊本県 熊本市
- ウ 九社連老人福祉施設協議会 特養部会セミナー  
令和5年11月頃予定 開催地未定
- エ 九社連老人福祉施設協議会 養護部会セミナー  
令和5年 8月～9月頃予定 開催地未定
- オ 九社連老人福祉施設協議会 軽費部会セミナー  
令和5年11月頃予定 開催地未定
- カ 九社連老人福祉施設協議会 通所部会セミナー  
令和5年11月頃予定 開催地未定

### (2) 全国関係

- ア 第2回 全国老人福祉施設大会・研究会議～JS フェスティバル in 岐阜～  
令和5年11月29日～11月30日 岐阜県 岐阜市

### (3) その他

- ア 福岡県介護等体験事業への実施協力
- イ 福祉のしごと就職フェア（県社協主催）への協力 春日市
- ウ 福岡県社会福祉大会  
令和5年10月 春日市